

「学習意欲を高める教室環境のくふう」

足利市立南小学校 清水 昌子

1 課題設定の理由

子どもたちの学級生活の大部分は教室の中ですごされることから、教室環境が子供たちに与える影響は、非常に大きいといえます。日常の学級生活に安定感を与え、明るく楽しいふんいき作り、そして、「よし、自分もやってみよう」という気持ちを、いかに起こさせることができるか、学級経営の一部をになうものとして取り上げてみた。

2 研究の仮説

子どもが伸びる教室環境は、教室の壁面一杯に作品や掲示物をべたべたはりつけても何の意味もないと思う。児童と掲示物の間に何の働きかけ合いも生まれてこないからである。

教室の環境づくりは、教室を、学習や生活をする上で楽しく意欲的に生き生きと活動できるような場に作りあげることです。そこで、施設・設備だけを整える物的環境だけを考えるのではなく、教師と児童との間にかもし出されるふんいきなどの人的環境も重視しなければならない。この両者が相互に働き合い、つながりをもつことで、楽しく生き生きとした学級ができると思う。

3 実践計画

- (1) 明るく楽しい教室をつくる。
- (2) 学習意欲をおこさせるようなくふうをする。
- (3) 子供を積極的に参加させる。

※ 次のようなことを配慮して実践中する。

- (1) 学級目標がたえず意識されている教室にする。
- (2) 学級のふんいきづくりに心を配る。
- (3) 教室をスラム化させない。(感動と問題意識)
- (4) 学級の特徴(カラー)を出す。
- (5) 真剣に生きている教師の姿を見せる。
- (6) 子供と一体となって

4 実践経過

(1) 学級目標がたえず意識されている教室にする

教室づくりは、あくまで学級の教育目標を達成するためのひとつの営みであるから、児童にとってはその目標に達成するための手がかりや励みを教師によって配慮してもらえることが大きな支えであると思う。その手がかりとなる教材・教具の適切な配置、掲示や展示した児童作品への

励ましのひとこと添え書きなどには、じゅう分に意を用いている。

※例 ① 児童ひとりひとりのめあてと反省

担任から、学年としての心がまえ、学級経営の基本方針、目標などをはっきりうち出し、子供たちひとりひとりが、努力目標がもてるように援助してやる。

目標カード ・最高学年なので学校全体 ・不得意な学科にがんばりたい ・いくまで勉強したい ・…………… ・……………	反省(正田一郎)	このちゃんは			
		担任の言葉			
		9月	10月	11月	12月

上記のようなものを色画用紙三分の一の大きさに印刷し、書きっぱなしでなく、全員のものを常掲しておき、全員が見られるようにしておく。友だちが何を希望し、どんなことに心がまえをおいているか知らせると同時に、これが、学級全体の6年生としての自覚を高めることにもなる。

※例 ② グループの月の目あてと、毎日の反省(4人グループ)

みんなが同じ目標にむかって進もうとする時、なまけていたり不注意だったりする児童がいると達成するのに困難である場合が多い。そこで、3人寄れば文殊の知恵といわれるように、自分の気づかなかったこと、知らなかったことなど、おたがいを利用し合って伸びていくということで、次のような表(色画用紙二分の一)に記録させ、反省の上に立って毎日を送らせるようにしている。

(11)月 2班		班の名前()					
今月の目あて							
日	1日の反省	検印	日	1日の反省	検印	教師の賞賛	
1	○		17				
2			18				
~~~~~							
16							
のりー感かか 想え月 つを てふ	○△× ことばで書く			認め、ほめられた時、金賞ラベルをはって行く。 良かった班にはミニ賞状を渡す			

## (2) 学級のふんい気づくりに心を配る

仲間づくりがうまくいって、暖かみと親しみのある学級ふんい気づくりの中で、知・情・意という人間の魂をゆさぶってやる。(個人も学級も共に成長)

### ※例 ① 家庭的で暖かいふんい気を作る

◎季節的な花、魚、草花を飼育する。

◎グループ作りに心を配る。(人間関係の調整)

○個人的な観点からは

- ・他人と暖かい態度で接する。
- ・公平、平等な態度をとる。
- ・共通した興味、関心を持ち、共通した経験をする。
- ・他人に共感的な(他人の身になった)態度をとる。

○学級集団としての観点からは

- ・きまりを作るとき、どのようなきまり方をしているか。(リーダーやボスの介入の様子等)
- ・モラルの状態はどうか。(明るく自信があるか、消極的、無関心であるか等)
- ・ボスや派ばつはどうなっているか。
- ・男女は協調的か、抗争的か。
- ・学級としてのふんい気はどうか。

○小集団を編成するとき(面接・ソシオメトリック・テストでやっている)

- ・相互選択を満足させる。
- ・相互選択のない者をできるだけ満足させる。孤立児や周辺にいる者を安定させる。
- ・相互に拒否している者は同じ集団に入れない。
- ・男女の協調に留意する。

○組織された集団へ(協同的な集団にするため)

- ・集団中心の指導態度をとる
- ・相互の協力をさかんにさせる。
- ・話し合いを活発にさせる。
- ・何でも言える自由なふんい気にする。

※ 仲間づくりがうまくいくことは、学習意欲を高める上にも重要で、児童が仲間と力を合わせて目標や課題の達成に努力し、仲間と助け合いながら、自分個人の目標の達成に向かって行動することが一致すると思う。

### ② 級友の成功や成長を喜び合えるふんい気を作る。

◎掲示・展示された友人の作品の良さや成長を喜び、それから学ぼうとする心や、弱い友、おきている友へのやさしい心づかいは、お互いの一体感を強め、よりよい学級にしようとする新しい希望と意欲へと発展する。

- 作文、その他個人の掲示物に対して、相互評価し合う。(みとめ、励まし)
- 助けぶね……学習中、発言の途中でつかえてしまった時などグループのものが補助発言をしてやるなど。
- よい時には周りから拍手をおくる。……心情をゆさぶる。

③ 教師と児童の心のつながいを大切にする。

子供の裸の心を知るためには、子供の中に教師がとびこんでいかなければ、なかなかひとりひとりを知ることはむずかしい。朝の始業前、休み時間、給食、掃除時、放課後など、教師がかみしをぬいで子供といっしょに雑談する、遊ぶ、清掃、手紙のやりとり、日記などによって、その中で自分をむき出しにした子供を理解することができる。こんなときの子供の行動や言葉、文から思わぬことを知ることが多いし、教師と子供との人間関係がうまくいくものである。

◎「先生にひとこと、〇〇さんにひとこと」(手紙交換)

- 右のような紙を印刷し、昨年より実施しているが、対話形式の手紙のやり取りなので、子供たちも安易な気持ちで書いてくれる。
- 子供が何を考えているか、それをとらえることが何よりも学級経営に大切なこと。ことばにならないつづやきの中に真実が含まれている。理くつや理論ではなく、何げない子供のつづやきの中にハッとすることがたくさんうかがえる。

(ザラ紙二分の一の大きさ)

先生にひとこと	11/10
-----	
-----	
名前	
-----	
-----	
〇〇さんにひとこと	/
-----	
-----	
-----	

— 子供からの手紙の例— (男子)

きのう、よそみしていたら、先生に注意されてしまったが、あれは本当はよそみでないよ。となりの桜井さんが、ぼくのこことつづいたからふり向いたんだよ。

これは、先生にひとことの手紙である。さっそくあやまりの返事を書いて哲君に渡した。それを読んでニコッとした顔には、先生に話してよかったということがうかがえた。

この他、家や学校生活でのうれしいこと、困ったこと、なやみなど、本音を書いてくれる。子供の真の声をとらえること、子供の真実の声をひき出す手だてとして、このような対話形式を実施してほんとうによかったと思っている。

先生にだけ知らせたいこと、知ってもらうことによって子供は教師のふところにとびこんでくるもの。子供は先生のそばによってきたい。そして、親しくしてもらいたいのです。

◎共遊の時間を大切にする。

教室で活やくしない子供も校庭に出ると、人が変わったようになる子、遊びの中ではリ-

ダ一格になる子、さまざまである。こんな遊びの中からひとりひとりの子供の様子をとらえることも出来るし、教師が共に同じ遊びをするということで、子供も満足しているようである。

○毎週水よう日は、全校の共遊の時間になっている。

#### ◎日 記

○普だん消極的な子供でも、日記ではいろいろ話してくれる。必ずそれに答えてあげるようにしている。いっしょに喜んであげたり、なやんだり、ある時には、「先生もそういうことがあったんだよ。こうしたらどうだろう。」と体験談や、その他、文に応じて朱書で記入してあげると、もっと内面的なことまで書いてくれる。

どんなに忙しくても、出された日記は必ず読み、先生からのことばを書いて返すようにしている。

○朱書きする時間は、休けい時、空時間、放課後などを利用している。

#### (3) 教室をスラム化させない（感動と問題意識をもたせる）

スラム化した環境の中では、子供の心がすさむ。心がすさめば、物の美しさや神秘さに感動できなくなり、問題意識ももてなくなる。

荒れた教室には美しい花が咲かない。「ゴミひとつ落ちていない観光地では、ゴミを捨てようにも捨てられなかった」というその感動と問題意識を教室の中でもできるだけ多く体験させてあげるように、場をくふうしてあげている。

#### (4) 学級の特徴を出す。……略

#### (5) 真剣に生きている教師の姿を見せる（率先垂範）

① 児童は、人間の生き方を働く親や教師の姿に学ぶ。

言語・表現・学習態度・生活態度・物の考え方・感じ方などが子供たちの範になっていることを常に自覚していなければならない。これを意識して真剣に生きている姿こそ子供らにとっては、最高の教室環境だと思う。

② 不言実行を心がけるようにしている。

#### (6) 子供と一体となって

教室づくりは、先生ひとりがやるものでもなく、仕事を児童に下請けさせることでもない。教室経営に児童も参加させて、創る喜び、使う喜びを味わわせる。

子供には創意があるから、教師の気づかないところに気づくことと、子供を参加させることによって、子供にとって親しみのあるものになる。そして、常に自分たちが教室を作り上げ、住みよくしているのだという意識を持たせるようにしている。

## 5 成 果

- (1) 自分たちの教室だ、学級だ、という意識が高まってきている。
- (2) 教師に本音を話してくれるようになった。
- (3) 協調性がますます強くなってきた。

## 6 今後の課題

楽しい、そして学習意欲を高める教室づくりということで、物的、人的環境（一部分）を考え、実践の途上にあるが、感動と、問題意識をもたせる場に直面しても、無関心（意欲がうすい）な児童がいる。このような児童のためにも、もっと場をくふうして、すべての面で意欲をもたせたい。

～ 学級経営実践記録から ～

### 評

孟母三遷の教えにもあるように、「環境は人を造る」といわれていますが、子どものための学習しやすい環境づくりは、新教育課程改訂の大きな柱の一つになっている「人間性豊かな児童生徒の育成」を考えると、教育の場として、当然配慮しなければならないことであると思います。

しかも、子どもたちを積極的に参加させることにより、集団の一員としての自覚を高め、みんなで作ってあげた、協力、助け合いのよろこびを体を通して体験させることは、たいへん素晴らしいことであり、大事なことであるります。

くふうされた環境というものが、単に物的環境だけではなく、毎日の児童の心の中に、いつも温かい励ましの交流がなされなければならないと思うし、そのことが、知・情・意の調和のとれた人間形成に大きく役立つことはまちがいないことであるります。

児童の教育にたずさわる者の一人として、わたしたちもこのような環境づくりに努力し、児童ひとりひとりを見つめ、温かい友情を育て、子どもたちと共に学習励んで、豊かな人間づくりを考えていきたいものです。